仙台市公民館運営審議会議事録

（令和６年５月定例会）

○　日　時

令和６年５月16日（木）午前10時00分～12時00分

○　会　場

生涯学習支援センター　５階　セミナー室

○　出席者

〔委員〕相澤雅子委員、伊藤美由紀委員、門脇佐知委員、佐々木心委員、佐藤正美委員、
佐藤美智子委員、千田恵委員、塚田昭美委員、原義彦委員、牧靖子委員

〔事務局〕生涯学習支援センター長　武者
生涯学習支援センター次長　内海
生涯学習支援センター管理係長　佐藤
青葉区中央市民センター長　吉田
宮城野区中央市民センター長　石川
若林区中央市民センター長　佐藤
太白区中央市民センター長　猪股
泉区中央市民センター長　古城
生涯学習部長　伊勢
生涯学習課長　小幡
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団市民センター課長　佐藤
（欠席：地域政策課長　市川）

○　傍聴人

なし

○　資　料

資料１：本日の協議の進め方
資料２：岩切市民センター事例報告
資料３：荒町市民センター事例報告
資料４：山田市民センター事例報告

※　会議の概要

１　開　会

事務局：本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたのでただいまから令和 6 年 5 月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。はじめに資料の確認をお願いします。次第と資料 1 から資料 4 までを事前に送付しております。また机上に「まなびのカタチ」「地域で活躍する子どもたち」「仙台市ジュニアリーダー」のリーフレット、本日の席次表、令和 4 年度仙台市市民センター事業概要を配布しております。事業概要は審議会の都度、各委員の机上に配布いたしますのでご自由に書き込み願います。

本日は市瀬委員、熊谷委員、坂入委員、三浦委員の 4 名から欠席のご返事をいただいております。現時点で委員の過半数である 8 名以上の出席を満たしておりますので市民センター条例施行規則第十条第三項の規定により有効な会議として成立しております。

本日の会議は令和 6 年度に入りまして、初めての会議でございますので、生涯学習支援センター長の武者からご挨拶を申し上げます。

生涯学習支援センター長：皆さまおはようございます。生涯学習支援センター長の武者でございます。令和 6 年度の初めての審議会にあたりましてご挨拶申し上げます。先週は仙台国際ハーフマラソン、今週は仙台・青葉まつりと仙台の初夏を告げるイベントも行われる季節となっております。この通りの前の緑も色濃くなってまいりまして、いろいろなことを始めるのにふさわしい時期だなと感じている所でございます。市内 60 館ございます市民センターでも令和 6 年度の事業がスタートしておりまして、コロナ後ということもあり生涯学習事業、地域活動などの活性化に鋭意取り組んでいるところでございます。今期の公民館運営審議会はこれまでご説明しておりますとおり仙台市市民センターの施設理念と運営方針の改定に係るご議論をお願いしておりまして、現在、地区市民センターの現状について事例をご報告しているところでございます。本日は 3 館の地区市民センターより報告を申し上げますので、忌憚のないご意見をいただければと考えております。

本日は、生涯学習支援センターで年度末に作成しましたリーフレットを 3 種類お配りしています。「まなびのカタチ」という冊子は、市民センターのいわゆる大人事業、前期の公民館運営審議会でもご議論いただいた住民参画型の学習事業について、いろいろな事例をご紹介しています。岩切市民センターのスズムシの取り組み、山田市民センターの「楽元の森プロジェクト」などが紹介されています。また、小・中学生の子どもたちが、市民センターの資源を使って活動している子ども事業についてもパンフレットがございますので後ほどご高覧頂ければと存じます。事務局も一部新体制となっておりますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：続きまして事務局より本日の出席職員をご紹介いたします。

［出席委員紹介］

事務局：それでは議事に入りますので、ここからは原会長にお願いいたします。

会長：皆さんおはようございます。新年度あけて最初の審議会となります。お忙しいところお集りいただ

きありがとうございます。この会議は原則公開となっていますが、今回、傍聴の希望はございますでしょうか。

事務局：本日はございません。

会長：ありがとうございました。次に議事録の署名委員ですが、名簿順ということで前回は伊藤委員にお願いしましたので、今回は門脇委員にお願いいたします。

２　協　議

会長：それでは協議に入ります。本日の協議の進め方について事務局からご説明お願いします。

事務局：本日の協議の進め方につきましてご説明いたします。資料の１に入ります前に、今期の審議会を簡単に振り返ってまいります。今期の審議会は仙台市市民センターの施設理念と運営方針の見直しに向けて、委員の皆さまからご提言をいただくこととなっています。1 月の審議会では市民センターの施設理念と運営方針に沿って市民センター事業の概要や運営などについてご説明いたしました。3 月の審議会では市民センター館長から実際の取り組みをご報告した後、館長を交えて意見交換を行い、地区市民センターの現状について共有させていただきました。5 月の審議会は 3 月と同様、市民センターの館長から報告をいただいた後、館長を交えた意見交換を行いたいと考えております。

それでは資料１をご覧ください。本日の会議の進め方でございます。まず、市民センター3 館から報告をいただきます。そのあと 5 分ほど質疑応答の時間をとり、会場のレイアウトを変更し、3 つのグループに分かれます。25 分ほどの時間を設けまして意見交換を行います。司会はグループの中の委員の中から選出をいただきたいと思います。各グループに当センターの社会教育主事を 1 名配置しホワイトボードに記録いたします。意見交換終了後、情報共有の時間を設け、各グループの代表から 1 名、意見交換の概要についてご報告をいただきます。およそ 1 グループについて 3 分程度を考えております。全体を通した質疑応答のあと 11 時 50 分をめどに終了したいと考えております。

本日のグループ分けについて、全体の総括は原会長にお願いしまして、各グループのメンバーは表にあるとおりです。第 1 グループは荒町市民センター、第 2 グループは岩切市民センター、第 3 グループは山田市民センターの館長に入っていただきます。なお、各グループに区中央市民センター長及び生涯学習支援センター次長も加わります。

令和 4 年度事業概要の 15 ページ以降に地区市民センターの基本的な役割の記載がございます。館長からのご報告はこの基本的な役割に沿って行いますので、報告をお聞きになる際は、15 ページ以降の地区館の役割を参照しながらお聞きいただきたいと思います。進め方については以上でございます。

会長:ありがとうございます。流れは前回と同じですので、おそらくご理解いただけるかと思いますが、進め方につきましてご質問等ございますか。

会長：ありがとうございます。事業概要の 15 ページ以降の市民センターの役割に沿ってということですが、そちらも含めてご質問ございますでしょうか。

（質問なし）それでは本日の進め方について事務局のご説明のとおり進めさせていただきます。

それでは市民センターの報告について、事務局からお願いします。

事務局：岩切市民センター、荒町市民センター、山田市民センターから 3 館続けてご説明します。はじめに、岩切市民センター館長お願いします。

岩切市民センター：岩切市民センターの事例を報告します。岩切市民センターは昭和 56 年老人憩いの家や岩切保健センター、岩切コミュニティ防災倉庫などを併設して公民館としてスタートしました。市民センターは地域コミュニティの拠点として長く親しまれてきました。建物は築 43 年が経過し、来年の 11 月以降に大規模改修の予定です。

岩切の地域の特徴として、岩切駅前の再開発事業があり、その時に若い世代が多く入ってきて、岩切小学校は現在、生徒 1,100 人を超えるマンモス校となっています。また、利府街道沿いは、大規模な区画整理事業が行われていて、新貨物ターミナルや宅地造成も進んでいます。昔ののどかな田園風景が少し変わってきています。年齢階層別の構成割合を見るとで全市的には少子高齢化が進んでいますが、開発事業などもあり、岩切地区は若年層や働き世代の人口割合が高くなっています。高齢化率は仙台市内でも低く、仙台市全体と比べて少し違う傾向があります。岩切地区は古い農家を中心とした歴史ある地域で、そこに開発事業が入ってきていますので、地区を細かく見ると岩切地区の古い地域と新しい地域では高齢化率は変わりますので、全体をトータルすると先ほど述べたような傾向にあるという状況です。このような地域性を踏まえまして、やはり多様な悩みを抱える子育て世代の支援が急務であろうと考えました。また、町内会など地域を支える団体がありますが、中核人材は高齢化しており、支援体制もなかなか難しい状況があります。新旧住民の意識や価値観の違い、世代間格差などもあり交流が進みにくい状況です。

新しい形でのネットワーク構築や人材育成、子どもたちとの関わりを担うような人材育成などが必要と考え、「ここがふるさと！ヒト・モノ・コト再発見」という目標のもと、昨年度後半から今年度にかけて進めていく予定です。昨年度の事業は 13 事業 68 回。乳幼児の親子、児童生徒、シニア世代、どなたでも、あるいは地域代表という形で、いろいろな世代をターゲットに事業を試みてきたところですが、地域課題も踏まえて、どちらかというと乳幼児や児童生徒の子育て世代の支援が手厚い形で事業を展開している状況です。

事業概要に照らしながら紹介すると「地域住民本位の生涯学習拠点機能」としては「家庭教育地域交流会」が一番のその役割に沿っている事業かと思います。岩切小学校・中学校とそれぞれの PTA、児童館、社会学級、岩切保健センターと一緒に行っており、6 者会議として地域の中で定着しています。この活動は、普段経験できないような子供の学び、特に触れる機会が少ない尺八や箏の演奏体験、防災など家庭では十分提供できないような学びの環境づくりなどに取り組んでいます。「地域の交流・拠点機能」としては、先ほどの家庭教育地域交流会からもう少し広げて、岩切地区にある 20 団体、さまざまなサークル、岩切地区町内会連合会、岩切地区社会福祉協議会も巻き込んで子育て支援体制を強化しようということで「岩切子育てネットワーク」を作りました。かわいい曲がりネギが帽子みたいになっている、岩切の子育てネットワークの象徴的なキャラクターですが、バッチなどにキャラクターを入れて皆で結束を強めて、子育て支援をさらに厚くしていこうと動いています。親子で食の教育や、「ママライフ手帳」という親御さんの悩み事をサポートする手帳を活用しての親世代への支援も行っています。これが特に岩切の中で力を入れている活動です。

「地域のコミュニティづくり機能」として、読み聞かせボランティアの方がよく来ていただいて、

子どもたち、親御さんたち、地域のボランティアの交流の場として小さなコミュニティづくりから少しずつ広がっています。岩切独自の取り組みとして「広がれスズムシの輪（リーン）」という活動があり。仙台市の虫であるスズムシが自生できる環境づくりを広げる活動を行っています。市民センターの中に「すずむしの里づくり実行委員会」を立ち上げ、市民センターの中でスズムシを飼っていて、配布会などを通して他の市民センターに配布したり、興味ある子どもたちに配布するという活動を行っています。キャラクターのリンリンちゃんも、先ほどの岩切子育てネットワークのキャラクターとともに愛されています。昨年度はパンフレットも作って、広くスズムシに興味ある人たちのつながりを求めて、さらに「すずむしの里づくり実行委員会」が持続可能な活動になるように、新たなボランティアを探しながら活動を展開しています。小学校の出前授業なども行っていますので活動の裾野を広げていきたいと思っています。

岩切はやはり子育て世代の親子を支援することが急務であろうということで、子どもたちの遊びの場や親御さんへの子育てのアドバイス、ボランティアさんを巻き込んだ教育の支援ネットワークを作っていこうということで、「子どもの広場事業」を強力に推し進めているところです。広場の運営のため、子どもへのアプローチと同時にボランティアの養成も踏まえて市民センターとして働きかけているところです。折り紙、からむしのストラップづくり、将棋などボランティアの生きがいづくりにもなっていて、Win-Win の関係ができていると感じています。ボランティア自身が子どもたちの遊びを自作して、新しいゲームを考えたりして、ボランティア自身のやりがいにつながっている場面が数多く見られます。シニア世代のボランティアだけでなく、ジュニアリーダーの中学生や高校生も子どもの広場を運営できるよう、ジュニアリーダーを養成しながら、いろいろなボランティアサークルと連携して子どもの広場を運営しています。子どもの広場の動画がありますのでご覧ください。

（動画の視聴）

今後の展望として、子どもの広場などの事業を展開するにしても、子どもたちが主役であることは間違いないんですが、市民センターとしてはそこに関わるボランティアを担う人材育成も同時に進めていかないと、先細りの活動になってしまうと考えています。ジュニアリーダーや新しいボランティアの開拓も含めて市民センターとして取り組んでいきたいと考えています。ネットワークを大事にしながら、地域課題を踏まえて取り組んでいきたいと思います。改めてこのキャラクターを心にとめておいていただければありがたいです。

事務局：ありがとうございました。次に荒町市民センター館長お願いします。

荒町市民センター：荒町市民センターの事例を報告します。荒町市民センターは地下鉄五橋駅から徒歩 3～4 分のところにございまして荒町・連坊を中心とした地域を管轄しています。市民センター自体は若林区の西の端にありますが、一本道路を西に渡れば青葉区、南に渡れば太白区、北に行けば宮城野区といったところで市内全域から利用があります。地域の特性として、やはり歴史のある地域なものですから地元愛にあふれた住民が多く、それによって地域活動も盛んです。また昨年の 4 月に東北学院大学の五橋キャンパスがオープンしまして、1 万人ほどの学生と教職員が行き来する地域になりました。人口は平成から令和にかけて統計を見ても大きく変わっておらず、わずかに増えたりわずかに減ったりしています。確実なのは高齢化率が少しずつではありますが着実に上がっています。令和 5

年 5 月のデータとして、仙台市の高齢化率が 24.8%のときに、まだ荒町地区は 22.3%なので仙台市全体から見ると少し低いです。地域活動が盛んであるとはいえ担い手の高齢化と、活動を知っている人と知らない人の差が大きいです。地域への関心の希薄について、毎年新しい住民が入ってきますので、地域にあまりなじみのない方たちが一定数常にいるということです。また荒町・連坊という場所に関心を長く引き付ける工夫も必要だろうと思っています。

課題解決に向けたセンターの取り組みとしては、やはり市民センターで地域をたくさん紹介するということ、地域活動の活性化に向けて、活動したい人たちをつなぐといったことを考えています。具体的な事業の取り組みを紹介すると、さまざまな世代の方たちが市民センターを使っています。例えば体操教室などで地域を味わいたい方もいれば、フェスティバルなどで自分たちの活動を発表したい人もいますし、四季ごよみの公園で落ち葉清掃をしている写真ですが、このように何かに手を貸したい人という方も活動しています。最近は学生ボランティアが増えており、伝統的にはジュニアリーダーや図書ボランティアの方が活動しています。

「地域住民本位の生涯学習拠点機能」として、さまざまな講座がありますが、例えば防災講座は地域のいろいろな団体や企業の方たちと、防災でどんなことをやっているのか、必要だと思うことはどんなことなのかを情報交換をして、その上で市民センターの事業を企画しています。誰もが参加しやすい環境を整えるため、開催の日時は平日の日中はもちろんですが、令和 5 年度の全 15 講座中 11 講座で土日夜間の講座を取り入れ、さまざまな状況の方が参加しやすいようにしました。20 年くらい続いている七夕作りの講座では、手話通訳をつけたり、UD トークという話したことが字幕になる機能のアプリを使って講座を実施したり、作り方動画を市民センターで作成し Youtube に掲載するなど、障害のある方もない方も高齢の方も分かりやすいように配慮しています。

「地域の交流・拠点機能」として特に 1 月に行った音楽会は市民企画で作った講座で、市民スタッフのみなさんによる企画と運営で、地域の人たちが出演したり、交流しながら音楽を聴きました。高齢者の方からは地域のことを若者を交えて話す機会になってうれしかった、若い人からも教えてもらってよかったという声も聞き、地域の持つ力に目を向ける良い機会になったと思っています。

「地域のコミュニティづくり機能」として、地域の持つ資源、公園やお寺、歴史、それから地域の人材を活用してさまざまな講座を実施しています。市民センターの中だけではなく、公園やお寺の境内を使わせてもらったり、七夕を作ったら、そのまま荒町の七夕まつりに参加するということで、地域を感じて地域のコミュニティに溶け込むような内容にしています。講座の内容は地域に関心を持てるような、そして関心を持つ機会にしたいと考えています。

「地域のコーディネート機能」として、市民センターのことを知ってもらいたいと思い、機会を見つけてはセンターの役割や取り組み内容をなるべくお伝えするようにしています。それから私たちが地域活動を知りたいという思いを伝えるようにしていましたので、それが実りまして、地域の方も何かしたいと思ったときには市民センターに相談してくれることが多くなりました。私たちも地域の活動がよく分かりますし関わることが多くなりコーディネートもしやすくなると思っています

「仙台荒町子まもりプロジェクト」の実行委員会の様子の写真を見ていただきますと、白いワイシャツの男性たちの背中がたくさん見えています。これは近所の会社員の方たちです。平日の午前中に実行委員会を開催するのですが、会社や団体ぐるみでこの子まもりプロジェクトに参加してくれていますので、仕事として参加していただいています。この方たちは基本的に市民センターには、個人では足を踏み入れたことがないという人がほとんどでした。こういった機会に市民センターのことを伝えて、もっとたくさん使ってもらえるようにしたいと考えています。

「地域の情報ステーション機能」として、学習情報や地域情報の提供をしています。地域活動が盛んということで地元の魅力を発信したいという方も多く、その方達がもっとさらに人材を増やしたいという話がありましたので、動画制作ワークショップを 2 年続けて行いました。その後、修了者は助言者となって次の人に伝えるという流れになり、活動も広がっていきました。荒町の事業の特徴として地域団体との連携や協力で実施しているものが多いと思います。地域活動が盛んでさまざまな団体と連携していますが、まんべんなく知られているわけではないし、新しい住民も毎年入ってくるといったことを考えると、市民センターの事業は地域への入り口と捉えて、地域への関心につながるように、センターに来た人たちと活動している人たちが交流できるように、なるべく関わりが増えるような内容を作っています。日ごろ市民センターを利用しない層への働きかけを重視しており、先ほど写真で見ていただきました会社員の人たちのように黙っていたらセンターに来ないような人たちにこちらから積極的に市民センターはこういうところです、こういう使い方もできるんですということを宣伝に行く。そしていただいた意見やこうだったら自分たちも行きたいなという話をお聞きしてそれをセンターの運営に反映するということに注力しています。住んでいる住民の方だけの地域ではないと思っていまして、仕事で来る人や通りすがりの人、この地域に関心があって遊びに来る人、言ってみれば交流人口をさらに一歩踏み込んだ関係にしたい、捕まえておきたいという気持ちもあって、なるべくそのような方とお会いする機会を増やすようにしています。

特徴ある事業ということで「仙台荒町子まもりプロジェクト」を紹介します。これは市民センターの事業ではなく地域の事業です。先ほどは地域のコーディネート機能というところでご紹介しましたが、これは地域のコーディネート機能だけではなく地域の交流・拠点機能も地域ネットワークにもあたると思います。市民センターはプラットホームになるだけではなく、その先、その延長線上にあるのではないかと思います。荒町は地域活動団体が多く、活動が盛んです。地域に事務局になる人やエンジンになる団体・人たちがいらっしゃるのであれば、市民センターはそれを支える方に回ればいい、そう考えて一緒に活動している事業です。全体像は記載のとおりで、また、Youtube に動画が載っておりますので「仙台荒町子まもりプロジェクト」で検索していただきご覧いただけると雰囲気が伝わると思います。子まもりプロジェクトの成果として、30 団体の参加がありまして、子どもや高齢者、地域を大切に思って活動している人たちがこんなにいるんだということが分かったこと、横のつながりができたこと、そして、子どもの防犯から始まり、防犯だけではなく防災にも高齢者の見守りにも有効である、そういう成果がありました。地域に対する関心が断然増したと思っています。

荒町市民センターの役割は資料に記載のある 5 点です。市民センターの役割やできることを知らせることで市民センターをうまく使ってもらう。市民センターが地域活動を把握することでうまくコーディネートできるようにする。個人や団体の橋渡しをうまく行う。たくさんのエンジンがある地域ですので、エンジンにうまく市民センターが巻き込まれてエンジンが回りやすいように成果が実感できるようにしていくのが市民センターの役割だなと感じて日々活動しているところです。

事務局：ありがとうございました。最後に山田市民センター館長よりご報告をお願いします。

山田市民センター：山田市民センターの事例を報告します。山田市民センターは、1988 年に山田公民館として開館しています。1989 年に開所、2018 年に全面改修が終わりまして、見違えるほどきれいになりました。特に体育館が全面 LED になり電気がすぐにつくと皆さん感動しています。施設の概要としては、体育館の面積が極めて広く、緑地面積も市民センターで一番広いです。館長になって最初

に引き継いだのが除草機の使い方でした。担当エリアも非常に広く、山田鈎取、上野山、太白、人来田、太白山の麓までエリアになっています。コロナ過の影響もあったせいか、私が着任した時は山田鈎取の方の利用が多く、人来田はエリアが広いのに市民センターが遠く、あまり利用がありませんでした。町内会からはなぜ人来田に市民センターがないのかという声も聞かれました。かつて人来田中学校に勤めておりましたので、人来田の話をしながらつながりを作り、市民センター事務室のお客さまを迎えるテーブルをきれいにしてサロンコーナーにして、町内会長さん等にもにお寄りいただけるようにしてコミュニティを広げていきました。

担当エリアの特性として、太白山もあり、自然豊かです。国道 286 号のあたりは、以前は田んぼが広がっていましたが、今は店舗も増え非常に便利になっています。上野山や人来田の方は山があるのですが、平地もあり暖かいです。地域資源として、鹿除け土手という藩政時代に作られた杉土手があります。海の方に行くと富沢の方に向かって水田だったため、ため池も多く、動物除けとして作られました。昔は長町まで続いており一部が残っています。そばに縄文の遺跡があり、今は縄文の森広場となっています。やはり住みやすい所だったのではないかと思われます。太白山の自然観察もすばらしい資源です。専門の方から丁寧に説明が受けられ、トレッキングコースなどもあります。校長先生をされていた方が中心になって楽元の森をきれいに整備して使えないかということから始まり、現在いろいろと活用しています。

人口の変化としては、太白小学区、人来田小学区は減っていますが、上野山小学校は増えています。エリア全体の人口は 21,089 人で増加率はマイナス 2.9%と、10 年間でわずかながら減っています。仙台市全体では 1.6%増えているので若干減っています。世帯数で見ると太白小学校区以外は増えており、特に上野山小学校区の増加率は 14.0%です。つまり家が増えているということです。昔の家の広い土地を半分にして家を 2 つ建てることにより、核家族化で一家族あたりの人数は減っていますが、世帯数が増えているという状況です。高齢化率としては、太白小学校区が 50%近くになっています。自然は豊かですが山田鈎取、人来田に比べると静かな感じです。人来田小学校区も結構高齢化率は高いですが、上野山小学校区は非常に低くなっております。それでも仙台市全体の高齢化率と比較すると高い状況です。

エリア全体の課題として、高齢化の進展があり、特に町内会会員の高年齢化は著しく、町内会長さんはほぼ皆さん 80 代です。上野山は比較的若い方が多くなってきていると感じています。山田市民センターは単独館で児童館はないのですが、それぞれの学校にマイスクール児童館があります。上野山児童館は非常に活発に活動をしています。そのため、子育て世代の利用はあまり高くありません。

エリア内の課題解決に向けて、やはり三世代の交流が大事であると考えています。担い手や人材の育成として、働いている世代の方々の関わりをもっと深めていかないと、いずれ町内会活動も衰退してしまうのではないかという恐れがあります。人来田地区、太白地区にはコミュニティセンターがあるのでそちらを使っていることが多いのですが、山田市民センターも使っていただき、山田鈎取、人来田、太白地区同士の関わりを深めていただきたいと考えています。市民センターの駐車場は狭い、利用しづらいというイメージがあるようですが、山田市民センター駐車場はとても広く、通常の状態で 70～80 台は停められます。エリア内には保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学などの施設がそろっています。以前は仙台西高等学校とほとんど関わりなかったのですが、今は非常に強い関わりがあります。宮城大学の先生ともつながりができ、今後、ボランティア等で若い力を活用するなど、いろいろな行事で宮城大学との関係を深めていきたいと考えています。

市民センターの主な活動として、学習ニーズや地域課題、市民参画、子どもたちの育成・交流、地

域の防災・減災などを中心に講座を実施しています。講座以外にも、ボランティア等の活動支援、地域をつなぐコーディネート業務、学習情報・地域情報提供を進めています。

地域住民本位の生涯学習拠点の機能として、山田出前講座を実施しています。これは3年前から始めており、いかに人来田地区、太白地区の住民と関わりをもつかを考え、昨年は太白山自然観察の森の協力を得ましてトレッキングを行いました。終わったあとは「お茶っこタイム」という交流の場を設けることとしています。太白地区はプロの演奏家を招き、当日は110人ほど集まり、太白のコミュニティセンターが満室になりました。その後の「お茶っこタイム」では演奏家の方々も含めましていろいろなお話ができました。上野山地区ではものづくりを行い、今年は地域人材の活用として、オペラをやっている方をお招きしてコンサートを開催する予定です。山田豊齢大学は、豊かに年を取りましょうということで高齢の方に定期的に市民センターに足を運んでもらっています。仙台フィルハーモニーのコンサートを行ったり、奥松島縄文村歴史資料館の館長からブラタモリと同じ内容のお話を伺ったり、体を動かす企画なども行っています。年々希望者が増え、今年は定員80名に対して100名近い応募があり全員の入学を認めています。非常に人気があり出席率も高いです。

地域の交流・拠点の機能として山田音楽祭をご紹介します。第一回は、午前に「スクール音楽祭」として小中高等学校の吹奏楽部に参加してもらい、実行委員としての協力ももらいながら、合同演奏会を行いました。現在、吹奏楽の部活動は縮小していまして、上野山小学校のバンドは6人、仙台西高等学校も20数名しかいない状況があります。写真の真ん中に写っているのは実に100人のバンドによる演奏で、体育館にこれ以上入らないというくらい聴きに来ていただきました。この時ばかりは体育館が若返り、非常に熱い雰囲気でした。午後からは、音楽サロン山田として、山田市民センターで活動している音楽サークルによる発表の場を設けました。音楽を発表できる機会は意外と少ないです。お互いに聞き合い、小学生の子どもたちがお茶を出してくれ非常に評判が良く、今年も開催する予定です。「山田ふれあいまつり」は山田市民センターのメインイベントで、近くの学校、福祉施設、消防署などの協力を得てコミュニティ作りを行っています。仙台西高等学校、人来田中学校、山田中学校の生徒はボランティアとして上履き入れを配るなど運営に協力していただきました。仙台西高等学校の生徒は授業でポスターデザインを行い、これが非常に好評でした。

地域のコミュニティづくりの機能として「楽元の森プロジェクト」を紹介します。楽元の森を活用した異世代間交流であり、子ども企画員を取り入れ、野外コンサート、野外キャンプ、デイキャンプ、流しソーメン、ピカボードを使った夜のコンサートなどを行いました。

地域のコーディネート機能として、3地区が防災訓練を別々に行っているという状況がありましたので、市民センターが取りまとめ役になって防災訓練講座を開催しました。災害時どのように行動するか、何を行うのかを学びました。今年は仙台市防災アドバイザー早坂さんを迎える予定です。

地域の情報ステーション機能として、山田鈎取まち物語運営委員会をご紹介します。これは地域の歴史を学ぶということで「山田鈎取まちめぐり」という冊子を作った時に結成された地域の歴史愛好家の活動です。子どもたちの総合的な学習の時間と連携して旗立駅の跡地など、秋保電鉄の跡を巡っています。運営委員会の方々に全面的に協力をいただいて市民センターと一緒に行いました。真ん中は講座として地域の方々と一緒に歩くということになっております。右下は区長さん等も来てお茶っこタイムみたいな形でその後またお話をするということ。上は東北大の先生に来ていただいてお話を伺っているところです。

山田市民センターの特色ある事業として、楽元の森が一番かと思いますが、リーフレットにも掲載されていますので、ここでは「山田かがやき隊」を紹介します。これは異世代間交流、地域全体の見

守り体制の構築を目的としており、年齢に関係なく誰もが参加できます。児童館や民生委員児童委員の方々と深く関わっており、スタッフとして一緒に活動したり、講師として教える側に回ってもらいます。夏休みに、民生委員児童委員の方が講師となり笹飾りを作りました。写真はお父さんと娘さんで、普段は関わりのない人達が作品作りを通して交流を深めました。障害を持った方や地域の高齢者の方も参加できるように、放課後デイサービスの団体や自立型高齢者ホームなどと交流を深めていきたいと思います。世代を超え異世代交流が進み、連携団体同士の接点ができ、なかなか集まることがない方たちにも協働意識が生まれました。今後はデイサービス団体の方と子どもたちとの関わりがもっと出てくればさらにすばらしい取り組みになると考えています。

山田市民センターとしては職員一同、常に「学び」「交流」「地域づくり」を念頭に取り組んでいます。本日はありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。市民センター館長からのご報告は以上でございます。

会長：ありがとうございました。この後グループに分かれて意見交換を行いますが、その前に全体を通じてご質問等がございましたらここでお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

（質問等なし）それでは意見交換に移りますので事務局からお願いします。

事務局:それでは事務局にて机と椅子を移動しますので、皆さま、いったん荷物のご移動をお願いします。

（意見交換）

会長：終わりの時間も見えてまいりましたので、ここでいったん、グループの話し合いは終了とさせていただきます。それでは各グループから報告をいただきたいと思います。1グループ２分～２分半くらいでお願いします。第１グループからよろしくお願いします。

委員：第１グループは荒町市民センターさんに入っていただきました。正直に申し上げると、本当にうまくいっていて、市民センターさんはうまくいっている活動がそのまま続けられるようにサポートしていく。今まで聞いていたような、市民センターが積極的に入っていってどうにか人を呼び込もうというのとは少し違っていました。例えば、どこの市民センターでも、若い世代や親世代、40代や50代の世代をどうやって地域活動に巻き込むか、というところからの話しでしたが、こちらは昼間働いている方達も協力してくれていました。親世代の方たちも楽しそうで、できそう、敷居が低そう、遊び、みたいなキーワードがあるのか、あまり苦なく参加しているということでした。それが長く続くか、後継者につながるかというのはまだ見えないところではあるのですが、市民センターに接点を持ったということで、もしかしたらここでなくても、将来そういう活動をしようということにつながるのではないかという思いもあってやっていただいているようでした。私たちは、交流やつながりと言っていますが、遊びという敷居の低いキーワードを出しながら参加を促してもいいのではないかという意見もありました。最終的には地域が自立して主役にならなくてはいけない。ずっと市民センターがやれないのであれば、荒町さんみたいな形も学んで、地域と市民センターとの関わりの方を考えた方がいいのかなということでした。

会長：ありがとうございました。続きまして第２グループよろしくお願いします。

委員：今日はたくさん勉強させていただきましてありがとうございました。第２グループは岩切市民センターの発表についてお話ししました。印象に残ったこととして、地域の特性を生かしている、地域の方が活動に積極的に参加している、地域の未来を見据えている、ということです。類似の地域として、富沢も郊外に立地し急速に発展している、お互いに育ち合える環境があるところが似ているという話もありました。発表にもありました仙台市の虫であるスズムシは、地域資源として市民センターのお部屋にも生息しているようで、柏木市民センターにもその子孫が行っているというお話も伺いました。川平でも児童館の先生が子どもたちと一緒にスズムシを飼育していたことがあって、土日休みで誰も世話ができないときに１箱預かってきたら、近所の人に「やたら昨日スズムシ鳴いたよね」と言われた経験があったので、スズムシはとても身近な事例で、みんなが取り入れやすいものなのだなと感じることができました。

社会学級からの展開、町内会の方々との協力連携ということも出てまいりました。地区館事業の目的や役割を踏まえた意見として、つながる場としての市民センターの重要性があげられました。ご紹介のあった「ママらいふ手帳」は、宮城野区のまちづくり推進課内の、地域はっぴぃ子育てプロジェクトが発行しているそうです。こういったものを活用するところも市民センターの一つの大きな役割かと思います。手帳を活用して、地域の子育てに悩む保護者の方、子どもたちの支援をするというのもとてもいい事例だと思います。スズムシの飼育のパンフレットも制作されていて、目に見えるもの、手に取れるもの、みんなが知ることができるツールとして非常に大事だなと思いました。

共助の意識の向上として、根源になるものが東日本大震災で、岩切地区には活断層もあり大きな被害を受けたというお話がありました。地域の方もボランティアで活動されていた話もあり、本当の苦難を経験したからこその、今の立ち上がりがあるということも実感しました。

今後への期待として、市民センターに来ない方への支援です。本当は来ない人ほど困っているのではないか。子育てに困っているなら手帳を活用する。ここに来れば何かあるよ、学べるよ、助けてもらえるよ、一緒にやろうよということを伝え、市民センターに来てもらえるようにしていければと思います。それから新しい世代の住民へのアプローチです。多くの人をより巻き込む取り組みや地域の防災意識の更なる向上を今後の期待ということで示させていただきます。

会長：ありがとうございました。続きまして第３グループよろしくお願いします。

委員：山田市民センターさんを囲みましてお話ししました。館長のパワーと、人脈の広さや作り方に感動しまして、これだけパワフルに広い地域をまとめていくということがすごいと思いました。印象に残ったことはサロンコーナーの設置です。私の近所の市民センターにはサロンはなく、入り口に事務所があるという感じです。サロンがあったら大変かもしれませんが、サロンに人が集まり、情報交換されたりすると思います。私は学校地域支援本部のスーパーバイザーもやっています。学校は「いつでもどうぞ」という感じですが、いつでもどうぞではないんです。地域の方のお手伝いをお願いしますか、と先生に声をかけても「大丈夫です」と。大丈夫でなくても地域の人を呼んでくださいと思っていますが、笑顔で断られます。館長が楽しんでいるということもとても良いと思いました。大変なこともあるのに、楽しんでいるということを皆さんに伝えることはすばらしいです。

小学校、中学校、高等学校、大学と連携を深めている話もありました。私の地域は近くに東北学院

大学が移転しましたが、学院大も大きくてボランティアさんがいるのかどうかも少しずつ見えてきたところです。近くに仙台二華中学校・高等学校もありますが、つながるのはなかなか難しいです。館長の近隣の学校をつなげる力、つなげる窓口、サロンなどいろいろな形であちこち移動されてすごいと思いました。つながりってどうやって作ればいいか、どうやって広げればいいか、という点はとても参考になりました。

今後への期待として、つながり作りは地域によっては違うと思うので、どうやってつながっていくか、自分の地域だったらどういうやり方がいいのかということを考えていければと思います。

会長：皆さんありがとうございました。まずそれぞれの地域の、それぞれの市民センターの活動がこれだけ多彩に行われているのかというのに驚きつつ感動したところです。共通項というよりも共通軸を出そうとすると、やはり活動の内容や課題、地域の素材、資源、そういったものが一つ。それをいかに工夫していくのか、いかに活用していくのか、いかに地域の方を巻き込むか、どうやったら市民センターに来られない方に来てもらえるか。あとは人だと思います。市民センター館長をはじめ職員の方々の熱意やバイタリティーなどです。いくら内容があってもそこで動かしてくださる方がいないと上手くいかないのではないか。そんな事を俯瞰して見ていくと少し共通の軸というか、それぞれオリジナルティがあるのでまとめるわけにはいかないのですけれども、そんな軸をつなげていくことはできるかなとそれぞれ拝見しながら感じたところです。前回と合わせて 6 つの市民センターの館長さんからお話しを伺い、それぞれ多彩な活動で、市民センターの方向性に期待を持てるなと思ったところです。

時間になりましたので、その他ご質問等はございますでしょうか。前回もそうでしたけれどもなんとなくいよいよ議論が高まっていくところでシャットアウトみたいになるので、ここもそれこそ工夫をしていければなと個人的には思います。それでは本日の議事はこれで終わりとなりましたので、事務局にお返しします。

事務局：ありがとうございました。次第の 3「その他」ですが、皆さまから全体を通してのご意見、ご質問等がありましたらお願いします。特にないようですので本日はこれにて終了とさせていただきます。

次回の日程につきまして、令和 6 年 7 月 4 日（木）の午前 10 時開催、会場はこの生涯学習支援センター5 階第 1 セミナー室を予定しています。開催案内は 1 カ月前を目安に文書でお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。なお、緑の冊子「仙台市市民センター事業概要」は回収いたしますので、机上に置いたままで結構です。以上で本日の会議の一切を終了いたします。ありがとうございました。

以上

会　　長

会議録署名委員